

ご挨拶

—— 10年の感謝を込めて

一般社団法人千葉県地方自治研究センター理事長（法政大学法学部教授）

宮崎 伸光



一般社団法人千葉県地方自治研究センター（以下、「当センター」と略記）は、昨年12月に設立10周年を迎えることができました。当センターの設立にご尽力を賜りましたみなさま、そして設立時と同じく、あるいはまたそれにも増して、設立後の今日まで志を共にしてお力添えをくださいました数多くの方々に、改めまして心より御礼申し上げます。

一般に団体活動の常として、長い期間に渡って維持していくことは、発足時の困難と同じかそれ以上に難しいことに他なりません。任意団体であれ、社団法人であれ、何らかの思いを基に集い活動を始めることは、ある種の「勢い」でも可能になります。しかし、時を経て当初の強い思いが萎えることもあるでしょう。また、集う人々の構成が変化することもあるでしょう。当該活動を巡る環境は変化します。さまざまな変化を乗り越えて、あるいは変化をふまえて、活動を継続させることは決して容易なことではありません。

実は、私は当センターの設立に至る前史とも言える状況を比較的早くから遠目に眺めておりました。古くはまだ学生であった40年以上も前に出入りしていた神奈川県地方自治研究センターを通じて、そしてその約10年後には地方自治総合研究所に職を得たことです。つまり、当センターとはいわば兄弟関係に当たるセンター・研究所から地元千葉のようすを見ておりました。

私は、当センターの設立時にはすでに法政大学に転じておりました。初代理事長の井下田猛・姫路獨協大学名誉教授が、当センターの設立にご努力を重ねられていたことは耳にしておりましたが、とくに積極的に協力を申し出るわけでもなく、取り立てて何をするでもないまま過ごしておりました。

そこで、いざ当センターが設立されるというときに声を掛けていただき、副理事長のご指名までいただきましたことはまさに望外のことでした。とはいえ、今正直に吐露しますと、当時の私は実に「軽く」考えてお引き受けしました。もっと有り体に表現するならば、「長続き」はしないだろうと思っていました。もちろん、この「長続き」については「私以外」の事情、あるいは「私の預かり知らないところ」の事情によってということです。案外、私と同じように早期の「開店休業」ないし「店じまい」を当時予測されていた関係者も少なくなかったような気がいたします。

しかし、初代井下田理事長のリーダーシップの下で築き上げられた礎は盤石でした。もちろん、そこに多くのお力添えを得ることができて今日の姿があります。確かに一般に継続が創設にも増して難しい側面があることは上に記したとおりですが、こと当センターにつきましても、発足当初の礎に据えられた視点と視角に誤りがなく、その後の歩みはその延長線上を進んでいるよ